

令和2年度「学校教育自己診断」の分析結果及び考察

○生徒、保護者、教職員それぞれを対象に実施

新型コロナウイルス感染症対策として、年度当初より臨時休業が続き授業時間数を確保するために夏季、冬季休業を短縮して授業を行った影響が各所に現れている。

【生徒アンケートより】

- ・「授業が分かりやすく、楽しい」の項目の肯定的評価が昨年度の76%から70%に、「職業に関する授業は様々な職場に必要な基礎的な力を学ぶことができる」が94%から83%に下がっている。臨時休業が長期間にわたり時間数が少なくなったことで授業の進度が速くなり、時間をかけていねいな指導ができにくい状況であったことが考えられる。このことについて今年度、生徒が「分かる」ことを実感できる授業づくりを目指して、VRゴーグルなどのICT機器を活用した就労支援に関する調査研究に取り組んでいる。
- ・安全に関する項目、「避難訓練などで非常時の安全について考えることができた」も昨年度の89%から77%に下がっていることは、密集する活動が制限されていたため避難訓練が例年通りに実施できなかったことが影響していると考えられる。
- ・「学校に行くのが楽しい」や「学校生活について先生の指導に納得できる」の項目が72%から75%、75%から80%へ、それぞれ上昇している。ていねいに生徒指導を行っていることが高い評価となっていると考えられ、さらなる向上を目指していきたい。

【保護者アンケートより】

- ・「授業参観や学校行事に参加したことがある」の項目が、87%から81%へと減少している。新型コロナウイルス感染症対策として多くの学校行事が中止となったことが主な原因である。次年度もこのような状況は継続されると思われるので、リモートやオンラインを活用した学校行事を模索していきたい。
- ・その他の項目では概ね前年度を上回る評価を得ている。特に「学校の生徒指導の方針に共感できる」の項目は87%から93%へ、「学校は将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている」の項目が90%から96%となった。保護者との懇談は感染症対策を十分に行ったうえで例年と変わらない頻度で実施し、ていねいに対応したことが大きな上昇につながったと考えられる。

【教員アンケートより】

- ・「目的に沿った研修に主体的に参加し、成就感を得ることができた」の項目が69%から53%へと大きく下がっているが、参加予定の研修が中止になったり、リモートやオンラインでの実施となったため成果を実感できにくい状況であったことが考えられる。制限がある中で効果的な研修の方法を模索するとともに、制限が緩和されれば、例年どおりの研修形態で実施できることを期待する。
- ・その他の項目は、ほぼ全て上昇している。特に「いじめへの対応」や「進路指導の方針の共有」の項目は全て10ポイント程度大幅な上昇がみられた。教員間での情報共有の時間を頻繁にとることで、生徒の理解が進んだと考える。